

平成 29 年 9 月 4 日

請願書

大村市議会議長 三浦正司 様

大村市東本町 2-1 大村ショッピングセンター 3F
新しい市民会館をつくる会 会長 西山常好



紹介議員 北村貴寿

紹介議員 田中博文

紹介議員 中瀬昭隆



【要旨】

長年市民に親しまれてきた市民会館が無くなり、大村市民の文化活動を取りまく環境は著しく低下しています。大村市には 1000 名以上を収容する大ホールを備えた、新たな市民会館が必要です。大村市における文化活動や市民活動の更なる振興を図るため、以下の通りお願いいたします。

- ・ 1000 名以上を収容する大ホールを備えた市民会館を新たに建設すること。

【理由】

長年市民に親しまれてきた市民会館は、県立市立一体型図書館の建設に伴い取り壊されました。そのため大村市で、ある程度の人数を収容できる主なホールは、客席数が 500 席の「さくらホール」と 150 席の「プラザおおむら」だけになっております。そして、現時点では、大村市に新しく市民会館を建設する計画はありません。市民の中には、市民会館は建て直されると思っている方が少なからずいらっしゃいます。建て直す計画は無いと伝えると、驚かれる方が少なくなく、市民会館は「あって当然」と思っている方が多いのです。

中には、「さくらホールは空きが沢山ある」とか「利用頻度はそんなに高くない」という認識もあるようです。実際にさくらホールのホームページからイベント予定を見ると、行事が無く空いている時が散見されます。しかし、これはあくまで実施される行事だけが表示されているものであり、実際には、イベント準備や練習等で使用されており、ほとんど空いている時はありません。平成 29 年 6 月から 8 月の土、日、祝日の予約状況を調べてみたところ、急に予定がキャンセルになった 6 月 3 日にだけ空きがあるものの、その他には全て予定が入っていました。さすがに平日は、多少は空きがあるでしょうが、ホールの使用は週末や祝日が主となります。そのため、平日の昼間を見て「空きがある」と言うのは当たらないのではないかと考えております。



また、ある団体が今年9月から12月の間でコンサートを計画したところ、土曜、日曜の予約はほぼ埋まっており、かろうじて空いていた一日を何とか確保し、自分達の都合を全て、その日に合わせて調整されています。その位「空き」は無いのです。そのため、ホールの稼働率を示す数値とは異なり、市民の実感として「空きが無い」「ホールが取れない」「不便だ」という認識が広がっています。

さくらホールは、市民会館が無くなった為、利用希望が殺到し、ホールの使用予約は抽選です。抽選に漏れた場合は、諫早等の市外の施設を利用したり、最悪の場合、催し自体を取り止めてしまうこともあるという状況になっています。その他にも、イベントや講演会の参加人数が限られてしまうという問題もあります。これまで市民会館で実施されて来た幼稚園のお遊戯会や中学・高校の吹奏楽部による定期演奏会も大きな制約を受けています。中学校の吹奏楽部は、各学校の父兄代表が集まり、ホールの使用について事前に調整会議を行わなくてはなりません。

また、大村市内最大のホールが500席程度では、一流ミュージシャンのコンサートや演劇等の公演は、利益が見込めないことから実施が困難です。これは、大村市民が、質の高い文化的活動や娯楽に接する機会を失っていることを意味しており、大村市民の文化・市民活動環境が、著しく低下していると言えます。また、大村市文化ホール基礎調査報告書によれば「新たに建設するホールの席数はさくらホール500席の規模以上が条件となり、大村市と人口構造や都市の性格が類似する都市の整備状況から判断すると、メインホールの平均的な整備水準として900席程度が考えられる」¹ともされています。

大村市は、長崎県の中央に位置し、長崎空港を擁し、高速道路からのアクセスも良く、今後、新幹線が開通すれば集客範囲も広がります。コンサート等イベントを行う出演者の利便性も極めて高いという好条件を有します。このような大村市に1000名以上を収容できるホールは「あってしかるべし」ではないでしょうか。

加えて、園田裕史市長が2015年に発表されたマニフェストには「市民会館の早期新築計画を進めます」と明記されており、その実現への期待が日々高まっています。

以上のことから、1000名以上を収容する大ホールを備えた新たな市民会館の建設について可能な限り早期に計画されるよう、今般当会の呼びかけにより集まった署名を添えて、強く要望します。

¹大村市文化ホール基礎調査報告書(72p) 3-3 新たな文化ホールの必要性 (2) 適正な席数 (平成27年1月作成)